

明治38年(1905)、ベルギーのリエージュ万国博覧会にパビリオンにおいて、「百花百鳥之間」という室内装飾の壁面として制作されたもので、もとは4面。川島甚兵衛の真髓、大型綴織壁掛である。出品後、宮内省で買上げ、幅7mに及ぶ2点は、蒔絵額に納められて明治宮殿の東溜の間に掛けられていたが、昭和20年5月の戦災にて宮殿と共に焼失。現存する「桐牡丹に孔雀図」は霞ヶ関離宮にて装飾品として使用され、「楓芙蓉に鶏図」は大正期に紅葉山の写真撮影所の壁面に飾られていた。原図は菊池芳文(1862~1918)によるもので、原図を含めた本作の制作に関する資料は、川島織物文化館に残されている。



18 綴錦「桐牡丹に孔雀図」壁掛(「百花百鳥之図」壁掛のうち)
川島甚兵衛 明治38年(1905)
319.0×593.0



18 綴錦「楓芙蓉に鶏図」壁掛(「百花百鳥之図」壁掛のうち)
川島甚兵衛 明治38年(1905)
306.0×596.0



18 綴錦「楓芙蓉に鶏図」壁掛 部分

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

美術染織の精華 ― 織・染・繡による明治の室内装飾

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 54

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社 東京美術
翻訳 横溝廣子
発行 宮内庁
平成二十三年三月二十九日発行

© 2011, The Museum of the Imperial Collections